

WEB 型オープンキャンパスの特徴と効果

— 来場型オープンキャンパスとの差異に着目して —

田崎 優里, 山田 恭子, 浦崎 直光 (琉球大学)

本研究では、2021 年度に開催された WEB 型オープンキャンパス (WEB 型) と、2019 年度に開催された来場型オープンキャンパス (来場型) にどのような差異があるかについて、それぞれの特徴を示すことで明らかにすることを試みた。加えて、WEB 型が志望順位と志望の程度にどのような効果を持つのかについて検証した。その結果、来場型は高校 1 年生と 2 年生、及び県内在住者が有意に多いのに対し、WEB 型は高校 3 年生と既卒生、及び県外在住者が有意に多いことが示された。また、来場型の満足度が中程度であったのに対し WEB 型の満足度は高いという特徴が示されたが、WEB 型への参加が志望順位や志望の程度を高めるという効果は示されなかった。

キーワード：高大接続，入試広報，オープンキャンパス，オンライン

1 はじめに

1.1 2021 年度のオープンキャンパスについて

入試広報の取り組みは、オープンキャンパス、進路相談会、出前授業、大学案内、学部案内などがあり、おおよそいずれの大学においてもこれらの取り組みは行われていると見て良いだろう。前述した取り組みの中でも、参加者が大学に来て様々なプログラムに参加するオープンキャンパス (以下、来場型オープンキャンパス；来場型) は、志望順位や志望の程度に対して一定の効果があり (平尾ほか, 2011)、重要な入試広報の 1 つである。しかし、昨年に引き続き COVID-19 の収束が見られなかったことから、琉球大学では、2021 年度のオープンキャンパスは、オンデマンド配信とライブ配信の 2 つのパターンで実施することとなった。オンデマンド配信は、事前に録画しておいた学部説明などの動画をホームページ上にアップロードし、希望者が随時その動画を視聴できる。そのため、ライブ配信への参加前に事前に視聴しておくことも、参加後に見返すことも可能であり、希望者はいつでも求める情報を収集することが可能である。一方で、ライブ配信は開催当日にリアルタイムで様々なプログラムが進行し、希望者が興味のあるプログラムに参加するという来場型と類似した形式で行われる。プログラムの内容自体も来場型とすべてが同じとはいえないものの、教員や学部学科の紹介、在学生との交流、質疑応答といった様々なプログラムが組み込まれている。以下では、このようなライブ配信を中心とする形で実施されるオープンキャンパスを、WEB 型オープンキャンパス (以下、WEB 型) とする。

本研究では、この WEB 型の特徴や効果について検証を行うこととする。WEB 型では、参加者の属性

や居住地、志望順位や志望の程度は来場型とどのような差異が認められるのだろうか。この点を明らかにし、それぞれの特徴を把握することは、効果的な入試広報を的確に行うために必要なだけでなく、今後の入試広報の選択肢を広げる上でも有用であると考えられる。

1.2 参加者の属性について

WEB 型は本学で初めての試みであり、どれほどの申し込みがあるのか、高校 3 年生や既卒生がもれなく申込みできるのか等、不透明な要素が多かった。そのため、申込期間の前半においては、本学ホームページ等で「申し込みは高校 3 年生および既卒生を優先する。」と告知している。申し込みの後半はこの制限を解除し、高校 2 年生、1 年生にも積極的な参加を呼びかけている。このような措置をとったことから、WEB 型の学年構成は、高校 1 年生が学年構成の主たる参加者となる来場型と異なり、高校 3 年生や既卒生が多くなることが予測される。一方で、参加者の居住地については、WEB 型にすることで離島であるというデメリットが解消され、より幅広い地域からの参加者が予測されるため、県外からの参加者が多くなることが予測される。

1.3 志望順位と志望の程度について

これまで行われてきた来場型は、志望順位や志望の程度にどのような効果があるのだろうか。まず、志望順位に関しては一貫した知見が得られているわけではない。例えば、野口 (2018) は高校 2 年生および 3 年生が主たる参加者となる来場型において、参加前後でアンケート調査を実施している。野口 (2018) は、事前アンケートの 60%以上が第 1 志望の参加者であ

り、事後アンケートにおいても第 1 志望の割合に変化が無かったことから、来場型が大学の第 1 志望の志願者の増加に寄与するとは言えないと指摘している。一方で、平尾ほか (2011) は、入学者を対象に来場型に参加した者のうち約 94%が第 1 志望もしくは第 2 志望なのに対し、参加していない者の第 1 志望もしくは第 2 志望の割合が約 66%にとどまっていることから、来場型への参加が志望順位に対して正の効果を持つと指摘している。しかしながら、自らの結果について、野口 (2018) も平尾ほか (2011) も因果関係が特定できないという限界を述べている。オープンキャンパスが志望順位にどのような効果を持つのかを検討する際には、この点について留意する必要があるだろう。

次に、志望の程度に関しては、来場型への参加によって志望の程度が高まるというおおそ一貫した知見が得られている (三好ほか, 2019; 野口, 2018)。加えて、三好 (2020) は、来場型と WEB 型の志望の程度の変化を比較している。三好 (2020) では、オープンキャンパスの参加者に対し志望の程度の変化を問い、「志望の気持ちが強くなった」、「変わらない」といった項目への回答を求めるアンケートを実施している。回答者が事前にどれくらいの志望の程度であったかは不明ではあるものの、来場型がもともと第 1 志望の参加者に対してのみ志望の程度を強める効果があるのに対し、WEB 型は参加前の志望順位を問わず志望の程度を強める効果があることを明らかにしている。

これらの知見を踏まえ、まず、志望順位に関しては探索的に検討していくこととする。本研究における WEB 型の主たる参加者が申込時のアナウンス通り高校 3 年生および既卒生であった場合、野口 (2018) の学年構成と一部類似する。そのような傾向が示される場合、もともとの志望順位が高い参加者が多く、参加後の志望順位の変化も見られないという結果が示される可能性が考えられる。次に、志望の程度に関しては三好 (2020) の知見を踏まえ、参加前と比べて志望の程度が強まると予測する。

1.4 本研究の目的

本研究では、2021 年度に開催された WEB 型と 2019 年度に開催された来場型について、それぞれの参加者の特徴を明らかにする。その上で、WEB 型が志望順位と志望の程度にどのような効果を持つのかについても検証する。加えて、満足度も指標として用いることとする。入試広報の 1 つである大学説明会に

において WEB 型の満足度が来場型と比べて低い (田中ほか, 2020; 山田ほか, 2020) ことを踏まえると、オープンキャンパスにおいても WEB 型と来場型で差異が示される可能性が考えられる。

2 研究方法

2.1 調査時期

WEB 型は、2021 年 7 月 10 日 (土) 午前 10 時から午後 5 時に開催された。事前予約制であったため、申込時に事前アンケートを実施した。その後、オープンキャンパス終了後に参加者に対して事後アンケートを実施した。

来場型は 2019 年 7 月 13 日 (土) 午前 10 時から午後 5 時に開催された。オープンキャンパス実施後のみ、参加者に対してアンケートを実施した。

2.2 対象と人数

WEB 型のアンケート対象者は、オープンキャンパスへの申し込み者 (事前アンケート対象者) および、オープンキャンパスへの参加者 (事後アンケート対象者) であった。来場型のアンケート対象者はオープンキャンパスへの参加者であった。来場型では、高校へのポスターやチラシの配布、ホームページでの呼びかけ等で告知を行い、学年による制限は設けなかった。

申し込み及び当日の参加者ののべ人数は、それぞれ WEB 型の申し込み者が 1560 名 (有効回答数: 1053 名)、WEB 型の参加者が 1230 名 (有効回答数: 450 名)、来場型の参加者が 5836 名であった (有効回答数: 4847 名)。

2.3 WEB 型のアンケートの調査方法と実施手順

申し込みやプログラムの予約には、オープンキャンパスプログラム管理システムである OCANs¹⁾を用いており、アンケートも実施可能であったことから、事前、事後ともに OCANs 上で実施した。

具体的な実施手順であるが、まず、申込時に事前アンケートへの回答を求めた。当日、参加者は事前予約したプログラム²⁾に参加した。プログラムの実施には Web 会議アプリケーションである Zoom が用いられた。その後、オープンキャンパス終了後に、参加者に事後アンケートへの回答を促すメールを送り、事後アンケートへの回答を求めた。

2.4 アンケートの項目

WEB 型では、学内での別途利用のため複数の項目群へ回答を求めたが、ここでは予測の検討に使用した

項目のみ報告する。まず、WEB型の事前アンケートでは学年、居住地、現時点での本学の志望順位（「現時点での第1志望の大学について教えてください。」という質問に対して、「1：第1志望は琉球大学だけである」「2：第1志望は琉球大学とほかの大学で迷っている」「3：第1志望は琉球大学以外の大学である」の3件法）、志望の程度（「本学への進学を志望する気持ちについてもっとも当てはまる数字を選択してください。」という質問に対して、「1：強く志望している」「2：少し志望している」「3：あまり志望していない」「4：全く志望していない」の4件法）への回答を求めた。次に、事後アンケートでは志望順位および志望の程度（事前アンケートと同様の項目）、満足度（「本日の学部説明会はいかがでしたか。あてはまる番号を選択してください。」という質問に対して、「1：とてもよかった」「2：わりとよかった」「3：あまりよくなかった」「4：全くよくなかった」の4件法）への回答を求めた。

来場型は事後アンケートのみ実施した。学年、居住地について聞いた後、参加前の志望の程度（「あなたは、オープンキャンパスに参加する前、本学への進学を志望する気持ちはどの程度でしたか。」という質問に対して、「1：強く志望していた」「2：少し志望していた」「3：まだよくわからなかった」「4：志望していなかった」の4件法）、参加後の志望順位（「オープンキャンパスに参加した今、あなたが最も志望する進路を教えてください。」という質問に対し、「1：琉球大学が第1志望」「2：他大学が第1志望」「3：短大が第1志望」「4：専門学校が第1志望」「5：就職を志望」「6：未定・わからない」の6件法）、参加後の志望の程度（「オープンキャンパスに参加することによって、本学への進学を志望する気持ちは変わりましたか。」という質問に対し、「1：志望の気持ちが強くなった」「2：変わらない」「3：志望の気持ちが弱くなった」の3件法）、満足度（「本日の学部説明会はいかがでしたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。」という質問に対し、「1：とてもよかった」「2：わりとよかった」「3：あまりよくなかった」「4：よくなかった」の4件法）への回答を求めた。

3 結果

3.1 WEB型および来場型の特徴

3.1.1 学年構成および居住地（事前アンケート）

開催方法（WEB型 / 来場型）とその他を除いた学年のクロス集計（表1）についてカイ二乗検定を行

った結果、有意な偏りが見られた（ $\chi^2(3) = 1038.92$, $p < .001$, $V = .42$ ）。WEB型の3年生（調整済み標準化残差 = 30.35）と既卒生（調整済み標準化残差 = 3.20）が有意に多く、来場型の1年生（調整済み標準化残差 = 25.55）と2年生（調整済み標準化残差 = 4.83）が有意に多かった。

表1 開催方法別の参加者の学年構成

	1年生	2年生	3年生	既卒生
WEB型	56 (5.3%)	203 (19.4%)	755 (72.1%)	33 (3.2%)
来場型	2299 (48.1%)	1268 (26.5%)	1130 (23.7%)	79 (1.7%)

開催方法（WEB型 / 来場型）と居住地（県内/県外）のクロス集計（表2）についてカイ二乗検定を行った結果、有意な偏りが見られた（ $\chi^2(1) = 131.271$, $p < .001$, $\phi = .15$ ）。WEB型では県外が多く、来場型では県内が多かった（調整済み標準化残差 = 11.53）。

表2 開催方法別の参加者の居住地

	県内	県外
WEB型	898 (85.3%)	155 (14.7%)
来場型	4482 (95.1%)	231 (4.9%)

3.1.2 志望順位と志望の程度（事前アンケート）

志望順位に関して、WEB型は、「第1志望は琉球大学だけである」が68.8%、「第1志望は琉球大学とほかの大学で迷っている」が24.5%、「第1志望は琉球大学以外の大学である」が6.7%であった。来場型は、事前の志望順位について回答を求める項目が無かった。

志望の程度に関して、WEB型は、「強く志望している」が77.4%、「少し志望している」が19.8%、「あまり志望していない」が2.2%、「全く志望していない」が0.7%であった。来場型は、「強く志望していた」が28.8%、「少し志望していた」が33.8%、「まだよくわからなかった」が24.6%、「志望していなかった」が8.4%、無回答が4.4%であった。

3.1.3 志望順位と志望の程度（事後アンケート）

志望順位に関して、WEB型は、「第1志望は琉球大学だけである」が70.4%、「第1志望は琉球大学とほかの大学で迷っている」が25.1%、「第1志望

は琉球大学以外の大学である」が 4.4%であった。また、来場型は、「琉球大学が第 1 志望」が 46.5%、「他大学が第 1 志望」が 21.2%、「短大が第 1 志望」が 0.5%、「専門学校が第 1 志望」が 1.6%、「就職を志望」が 0.3%、「未定・わからない」24.8%、「無回答」が 5.3%であった。

志望の程度に関して、WEB 型は、「強く志望している」が 79.5%、「少し志望している」が 18.6%、「あまり志望していない」が 0.2%、「全く志望していない」が 0%であった。来場型は、「志望の気持ちが強くなった」が 50.8%、「変わらない」が 40.0%、「志望の気持ちが弱くなった」が 1.0%、「無回答」が 8.2%であった。

3.1.4 満足度（事後アンケート）

数量的な分析を行うため、「とてもよかった」を 4、「わりとよかった」を 3、「あまりよくなかった」を 2、「全くよくなかった」及び「よくなかった」を 1 とした。開催方法と満足度のクロス集計（表 3）についてカイ二乗検定を行った結果、有意な偏りが見られ（ $\chi^2(3) = 40.388, p < .001, V = .09$ ），WEB 型では「とてもよかった」が多く（調整済み標準化残差 = 6.22），来場型では「わりとよかった」（調整済み標準化残差 = 5.35）「あまりよくなかった」（調整済み標準化残差 = 2.71）が多かった。

表 3 開催方法別の参加者の満足度

	1	2	3	4
WEB 型	1 (0.2%)	5 (1.1%)	97 (21.6%)	347 (77.1%)
来場型	9 (0.2%)	158 (3.5%)	1534 (34.0%)	2814 (62.3%)

※ 1=「よくなかった」「全くよくなかった」、2=「あまりよくなかった」、3=「わりとよかった」、4=「とてもよかった」

3.2 WEB 型の効果検証

3.2.1 WEB 型参加前後の志望順位の変化

事前アンケートと事後アンケートの両方に回答した参加者は 450 名であったため、これを有効データとし、これ以降の分析に使用した。参加前の志望順位の平均順位は 1.497，参加後の志望順位の平均順位は 1.503 であった。参加前後で志望順位が異なるかどうかを、ウィルコクソンの符号化順位検定で検証した結果、有意な差は示されなかった（ $Z = -0.74, p = .46, r = -.024$ ）。クロス集計を表 4 に示した。

3.2.2 WEB 型参加前後の志望の程度の変化

参加前の志望の程度の平均順位は 1.499，参加後の志望の程度の平均順位は 1.501 であった。参加前後で志望の程度が異なるかどうかを、ウィルコクソンの符号化順位検定で検証した結果、有意な差は示されなかった（ $Z = -0.11, p = .91, r = -.004$ ）。クロス集計を表 5 に示した。

4 考察

4.1 検証結果のまとめおよび考察について

本研究では、学年構成や、居住地、満足度、志望順位と志望の程度の点から、WEB 型と来場型それぞれの特徴を明らかにすることを目的に一連の検証を行った。その結果、まず、学年構成と居住地、満足度について WEB 型と来場型で異なる特徴があることが示された。さらに、WEB 型が志望順位と志望の程度に与える効果は示されなかった。以下ではそれぞれの結果について考察していくこととする。

4.2 WEB 型および来場型の特徴について

4.2.1 参加者の学年構成と居住地

WEB 型の参加者は高校 3 年生と既卒生が有意に多く、来場型では高校 1 年生と高校 2 年生が有意に多いという結果から、開催方法で学年構成に違いがあることが示された。WEB 型において高校 3 年生と既卒生の参加者が多かった要因として、申込前半に高校 3 年生および既卒生を優先としたことが考えられるが、この点に加えて高校側の対応の変化も要因として挙げられると考えられる。従来の来場型では、高校 1 年生や 2 年生が学校行事や授業の一環として参加するケースが多かった。一方で、WEB 型開催後に行った本学による高校へのアンケート調査では、オープンキャンパスへの参加について、「COVID-19 によるオープンキャンパスへの参加の制限や参加方法の変更により、参加を生徒の自主性に任せた。」とする回答が多かった。この傾向と解釈は三好（2020）においても示されており、今後 WEB 型における 1 つの特徴となるかもしれない。

参加者の居住地に関して、有意な偏りが示され、WEB 型では県外からの参加者が多く、来場型では県内の参加者が多いという特徴が示された。開催方法を WEB 型にすることで、より幅広い地域から参加者が見込めるだろうという予測が支持された。人数の少なさは、本学の所在地となる沖縄県で COVID-19 が収束を見せず、WEB 型の開催自体が危ぶまれていたこ

表4 WEB型参加前後の志望順位のクロス表

		志望順位 (事後)		
		第1志望は琉球大学 だけである	第1志望は琉球大学とほかの 大学で迷っている	第1志望は琉球大学 以外の大学である
志望順位 (事前)	第1志望は琉球大学 だけである	307 (68.2%)	13 (2.9%)	2 (0.4%)
	第1志望は琉球大学とほか の大学で迷っている	10 (2.2%)	96 (21.3%)	2 (0.4%)
	第1志望は琉球大学 以外の大学である	0 (0.0%)	4 (0.9%)	16 (3.6%)

※ 事前/事後アンケートの両方に回答した参加者を分析対象とした為、3.1.2 及び3.1.3の数値とは一部整合しない。

表5 WEB型参加前後の志望の程度のクロス表

		志望の程度 (事後)			
		強く志望している	少し志望している	あまり志望していない	全く志望していない
志望の程度 (事前)	強く志望している	339 (75.3%)	21 (4.7%)	2 (0.4%)	0 (0.0%)
	少し志望している	18 (4.0%)	58 (12.9%)	2 (0.4%)	0 (0.0%)
	あまり志望していない	1 (0.2%)	4 (0.9%)	4 (0.9%)	0 (0.0%)
	全く志望していない	0 (0.0%)	1 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

ともあり、参加希望者にとって十分な周知期間や申込み期間を設けることができなかったためであろう。本研究の結果は、十分な周知期間や申込み期間を設けることができれば、WEB型によって県外からの参加者を増やすことが可能であることを示唆するものであり、WEB型の特徴をとらえているといえよう。永田ほか(2021)も、志望大学が居住地から遠い場合、経済的理由からオープンキャンパスへの参加をあきらめる高校生が存在し、そのような参加希望者にとってWEB型は肯定的に捉えられることを指摘している。本学が離島であることに鑑みると、COVID-19が収束したとしても、遠隔地の参加希望者にとって、オープンキャンパスへの参加のハードルは大学の近隣に住んでいる参加希望者と比べて高い。来場型をメインとしたオープンキャンパスを開催する場合でも、県外の参加希望者に向けたWEB型を併せて取り入れることで、これまで参加をあきらめていた参加希望者へのアプローチが可能となり、結果的に志願者の増加に寄与する可能性が考えられるのではないだろうか。

4.2.2 志望順位と志望の程度

WEB型の事前アンケートでは、本学を「第1志望」とし、「志望の程度が高い」参加者が約70%から約80%と高い割合を示しているのに対し、来場型は約30%から約50%にとどまっていた。これらの傾

向には、WEB型への参加には自主的な申し込みの必要があり、積極的に本学を志望している参加希望者が申し込みをしたことが影響していると考えられる。一方で、来場型の場合は、学校行事等の一環として、本学を志望しているかいないかにかかわらず、オープンキャンパスに参加している参加者が一定数存在したことが推定される。これらの要因が、志望順位と志望の程度にそれぞれの特徴として表れていると考えられる。

4.2.3 満足度

WEB型は「とてもよかった」が有意に多く、来場型は「わりとよかった」「あまりよくなかった」が有意に多かった。WEB型は来場型と比べ、学部説明会の参加人数に大きな違いがあり少人数であったために、参加者の質問や悩みにより丁寧な対応ができた可能性が考えられる。加えて、WEB型では質問をチャット等で書き込んでもらうといったプログラムが多かった。参加人数に加えこのようなシステムによって質問をする心理的負担が軽減され些細な質問も可能となったことが、満足度を高めた要因である可能性が考えられる。WEB型と来場型の大きな違いは、特色ある学部の空気を肌で感じるができるか否かであろう。この違いが参加者のどの側面にどの程度の影響を与えるのかはさらなる検討が必要だが、学部説明会に関する満足度への影響は想定されているよりも小さいのかもしれ

ない。

4.3 WEB 型の効果検証について

4.3.1 志望順位に与える効果

参加前後で志望順位に有意な差が示されなかったことから、WEB 型への参加は志望順位を高める効果を持つわけではないということが示された。これは、野口 (2018) の結果と同様であった。事前アンケートで、68.8%が「第 1 志望は琉球大学だけである」と回答しており、事後アンケートでも、70.4%が「第 1 志望は琉球大学だけである」と回答していたことから、本研究からは、オープンキャンパスへの参加が志望順位を高めるのではなく、志望順位が高いからオープンキャンパスへ参加するといった因果関係を考えるのが妥当かもしれない。

4.3.2 志望の程度に与える効果

WEB 型は、参加前の志望順位を問わず、志望の程度を強める効果があるとされている (三好, 2020) が、本研究において有意な差は示されなかった。本研究では、事前アンケートの時点で約 80%の参加希望者が「強く志望している」と回答していた。この点を踏まえると、WEB 型への参加は志望の程度に効果がないと解釈するよりも、WEB 型の参加者は志望の程度が強い参加者が多く、志望の程度は強いまま保たれたと解釈する方が良いだろう。一方で、学年構成の偏りが影響していた可能性を考慮すると、本研究の結果のみをもって WEB 型がこのような傾向を示すと一般化することはできない。この点については、今後さらなる検証が必要であるだろう。

5 本研究の課題と今後の展望

本研究では、WEB 型と来場型という 2 種類の開催方法からそれぞれの参加者の特徴を明らかにすることを試みた。一方で、参加者の特徴に影響を与える要因は、開催方法だけでなく他にも存在すると考えられる。例えば、本研究の研究対象となった 2019 年度 (来場型) と 2021 年度 (WEB 型) では入試内容に大きな変化があったが、本研究ではこの影響を含めた検討をしていない。加えて、2019 年度以前は本人の志望の有無にかかわらず授業の一環として参加を課す高校も一定数存在した。学年が下がるほど授業の一環としての参加が増えることを考えると、志望順位や志望の程度の変化を検証する際は学年別の検証がより重要であると考えられる。今後は、入試内容や受験者動向、高校側の対応など、参加者を取り巻くさまざまな状況的要因を含めた検証をしていく必要があると考えられる。

本研究の結果からは、WEB 型への参加が志望順位や志望の程度に効果があるとはいえなかった。この点について、志望順位や志望の程度が純粋に個人の気持ちだけで決まるのではなく、学力や教員との面談、家族内での話し合いなど様々な要因によって規定されることに留意する必要がある。オープンキャンパスに参加したのち、オープンキャンパスへの参加経験も含めて、数か月間検討が行われた上で意思決定されるというプロセスを仮定した場合、オープンキャンパスの影響をより正確に把握するためには、今後、縦断調査による検証を行う必要があると考えられる。

注

- 1) オープンキャンパスや説明会の運営をサポートするプログラムシステムのことである。本学ではオープンキャンパスのプログラムの公開、申し込み、アンケート収集等に活用した。
- 2) プログラムは各学部で異なり、教員や学部学科の紹介、在学生との交流、質疑応答など複数のプログラムが実施された。

参考文献

- 平尾智隆・大竹奈津子・久保研二・山内一祥 (2011) . 「ある国立大学における入試広報の効果測定—志望順位を決定する要因—」『大学評価・学位研究』 **12**, 19-28.
- 三好登 (2020) . 「COVID-19禍における高校生の進学希望の変化に与えるオンラインオープンキャンパスの効果研究」『令和3年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 発表予稿集 (オープンセッション用)』 **16**, 71-78.
- 三好登・望月聡・福井寿雄・西郡大・吉村幸・當山明華・藤井良宜 (2019) . 「進学希望の変化に与えるオープンキャンパスの効果研究—九州地区国立4大学によるベンチマーキングを通じて—」『大学入試研究ジャーナル』 **29**, 124-131.
- 永田純一・三好登・竹内正興・杉原敏彦 (2021) . 「オンライン入試広報活動の課題と展望—広島大学を事例に—」『令和3年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 発表予稿集 (オープンセッション用)』 **16**, 65-70.
- 野口将輝 (2010) . 「オープンキャンパスで変わる参加者の志望順位—オープンキャンパスの広報効果の測定手法の提起—」『大学入試研究ジャーナル』 **28**, 209-214.
- 田中光・山田恭子・浦崎直光 (2020) . 「沖縄県内の高校を対象としたオンライン大学説明会の効果」『令和3年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 発表予稿集 (オープンセッション用)』 **16**, 53-58.
- 山田恭子・田中光・浦崎直光 (2020) . 「オンライン型大学説明会と対面型大学説明会のアンケート結果に基づく比較」『令和3年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 発表予稿集 (オープンセッション用)』 **16**, 59-64.